令和8年6月作成

妊産婦健康診査を受けましょう

妊産婦健診は妊娠の経過が順調か、お腹の赤ちゃんの発育はどうか、また出産後の健康状態等を定期的に確認するものです。

定期的に健診を受けることで流産・早産を予防したり、母体に起こる病気を早く発見したりすることができます。お母さん自身の体とおなかの赤ちゃんを守るためにぜひ受けましょう。

〈妊産婦健康診査受診票の使い方について〉

母子健康手帳と一緒にお渡しします「妊婦一般健康診査受診票」・「超音波検査受診票」・「産婦健康診査受診票」を医療機関で妊産婦健康診査を受ける際に提出してください。料金が一部助成されます。

妊娠届出の時期に応じて最多で妊婦一般健康診査14回分、超音波検査６回分、産婦健康診査２回分の費用を助成します。

標準受診時期を目安に、医師とご相談の上、受診票を利用して健診を受けてください。

＜妊婦健診標準受診時期＞

回数	妊娠週数	助成限度額（円）		
		妊婦一般健康診査		超音波検査
		医療機関	助産所	
1	８週前後	25,240	―	―
2	１２週前後	1,020	3,170	5,300
3	１６週前後	1,020	1,020	―
4	２０週前後	1,020	1,020	―
5	２４週前後	4,690	―	―
6	２６週前後	1,020	1,020	5,300
7	２８週前後	1,020	1,020	―
8	３０週前後	1,020	1,020	―
9	３２週前後	1,020	1,020	―
10	３４週前後	3,120	3,120	5,300
11	３６週前後	6,680	―	―
12	３７週前後	3,120	3,120	5,300
13	３８週前後	3,120	3,120	5,300
14	３９週前後	3,120	3,120	5,300

＜産婦健診標準受診時期＞

回数	時期	助成額（円）
1	産後２週前後	5,000
2	産後１か月前後	5,000

【注意事項】

- 受診票は、再発行できませんので大切に保管してください。
- 受診票は深川市の住民以外は利用できませんので、転出先の市町村で受診票等の交付を受けてください。
- 転出後に誤って利用された場合は、速やかに医療機関へ連絡し、助成金相当額をお支払いください。また、あなたの転出先を医療機関に連絡させていただく場合がありますのでご了承ください。

★妊婦健診を受けた結果、精密検査が必要となった場合★

精密検査にかかる料金のうち自己負担分を（一人１回のみ）助成します。その場合は、「妊婦精密健康診査受診票」が必要となりますので、**精密検査を受ける前に**「妊婦精密健康診査受診票 」の交付の手続きをしてください。（手続きには、健康保険証・母子健康手帳をご持参ください。）

ご不明な点は、健康・子ども課健康推進係（２６－２６０９）までお問い合わせください。

※ 裏面もご覧ください。

〈妊婦健診で行われる主な検査について〉



■妊娠糖尿病

妊娠中は胎盤から出るホルモンによってインスリンというホルモンの働きが阻害されるので血糖値が上がりやすくなります。血液中の糖が尿に出ることもありますが、一時的なことが多いので驚くことは　ありません。しかし、血糖値の高い状態が続くと赤ちゃんが奇形を持って産まれたり、巨大児になったり、お母さんが本当の糖尿病になる可能性もあります。

妊娠糖尿病の原因は、糖分のとりすぎが考えられます。まず、間食と甘い飲み物、果物を控えることが大切です。つぎに、ごはん、パン、麺類やいも類、調味料に使用する砂糖やジャムなどを控えます。

同時に、軽い運動をすることも効果があります。おなかが張らない程度に、３０分から１時間程度の散歩やウォーキングを心がけましょう。

妊婦健診では必ず血糖検査をすることになっています。ご自分の検査結果を確認しましょう。

妊娠糖尿病と診断された場合は、食事や運動に気をつけ血糖値をコントロールしましょう。出産後も病院を受診し定期的に検査を受けましょう。

■Ｂ型肝炎ウイルス検査

Ｂ型肝炎ウイルスを持っているかどうか調べるための検査です。お母さんがそのウイルスを持っていると分娩時に赤ちゃんに感染することがあります。

お母さんが感染していることがわかれば、赤ちゃんへの感染を防ぐために、生後すぐの赤ちゃんに、免疫グロブリンやワクチンを接種します。

■トキソプラズマ感染症

トキソプラズマ原虫が寄生して起きる病気です。妊娠の数か月前あるいは妊娠初期に初めてトキソプラズマに感染すると流産や胎児への障がいを起こすことがあります。トキソプラズマは猫からうつることが多いのですが、生肉や土から感染することもあります。ヒトからヒトへ感染することはありません。

［トキソプラズマの感染を予防するために］

・猫のトイレの掃除は妊娠中でない人にしてもらう。それが出来ないときは、手袋をしてトイレの掃除をする。猫のトイレは毎日掃除する。掃除の後は石鹸で手をよく洗う。

・生に近い肉やレバーの刺身などは避けて、よく火が通った肉を食べる。生肉を調理した包丁やまな板は十分洗浄して、そのまま野菜などを調理したりしない。調理中に半生の状態で味見しない。

・庭いじりをするときは必ず手袋を着用する。その後はよく手を洗う。



妊婦健診で行った検査の結果は確認し、わからないことがあれば、担当医師や看護師に相談しましょう。